

学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

芸術科（書道○）学習指導案

○○高等学校 ○○科 ○年○組
 令和○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 単元名

◇学習指導要領に示す芸術科の「第2款 各科目」における各科目の「2 内容」の各中項目及び〔共通事項〕を「内容のまとめり」という。この「内容のまとめり」を踏まえて、単元を設定する。

2 単元の目標

◇学習指導要領の「内容のまとめり」の記載事項等を踏まえて設定する。

- 例（1）「知識及び技能」に関する目標（例：～理解する。～身に付ける。等）
 （2）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～表現する。等）
 （3）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～態度を養う。等）

3 単元の評価規準

◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（巻末に「内容のまとめりごとの評価規準(例)」が記載されている）等を参考にして、適切に設定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（単元の目標に対して） ～身に付けている。 ～理解している。 等	（単元の目標に対して） ～表現している。 等	（単元の目標に対して） ～しようとしている。 等

4 指導上の立場

○単元観

◇指導者の立場で書く。

○生徒観

○指導観

- ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」(何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか)も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その単元の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。
- ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する学級の課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

5 指導と評価の計画 (全○時間) (●…「記録に残す評価」、◎…「指導に生かす評価」)

次	時	学習活動	知識		技能	思・判・表		態度		評価規準及び評価方法
			表	鑑		表	鑑	表	鑑	
一	1	◇主な学習活動を書く。				◎				表現の意図と工夫について考えている。 【ワークシート】
	2									
二		◇「思・判・表」は「思考・判断・表現」、「態度」は「主体的に学習に取り組む態度」を示す。 ◇この形式例では「表現」と「鑑賞」の複合単元を想定し、「表」は「表現」、「鑑」は「鑑賞」に関する観点を示している。				●				◇単元の評価規準に照らして実現状況を見取り把握して「指導に生かす評価」を重点的に行う場面を「◎」で示す。 ◇単元の評価規準に照らして実現状況を見取り「記録に残す評価」をする場面を「●」で示す。 ◇「指導に生かす評価」は適宜生徒への指導に生かすとともに、指導の改善に生かし、「記録に残す評価」は単元のまとめごとで総括する。
三						●				

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準（観点） 【評価方法】
1 ◇生徒の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2 目標 ◇単元における本時の位置づけを踏まえ、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。 ◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。 ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。	◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・生徒が主体的に学習を進めるための手立て ・生徒が対話的に学習を進めるための手立て ・生徒が学習を深めるための手立て ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。	◇単元を通して資質・能力を育成する力を踏まえ、本時の評価規準を具体的に表現する。評価の場面は1、2箇所を絞る。評価規準と合わせて、評価の観点・項目を明記する。評価方法を具体的に書く。
3 4 まとめ	◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。	◇評価方法の例 ・活動の様子 の観察 ・ワークシートの記述 ・作品 等
5	◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート、提示資料、使用する道具等必要な準備物を書く。